

# 近傍銀河における分子ガスの性質と銀河環境の関係

小山 舜平<sup>1,2</sup>, 小山 佑世<sup>3,4</sup>, 山下 拓時<sup>5</sup>, 諸隈 佳菜<sup>2,6</sup>, 松原 英雄<sup>2,4</sup>, 中川 貴雄<sup>2</sup>, 林 将央<sup>6</sup>, 児玉 忠恭<sup>3,4,7</sup>, 嶋川 里澄<sup>8</sup>, 鈴木 智子<sup>6</sup>, 但木 謙一<sup>6</sup>, 田中 壱<sup>3</sup>, 山本 萌黄<sup>4</sup>

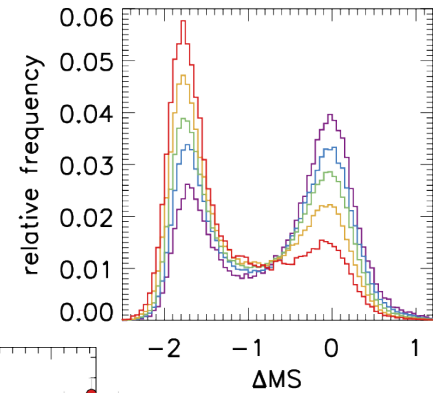
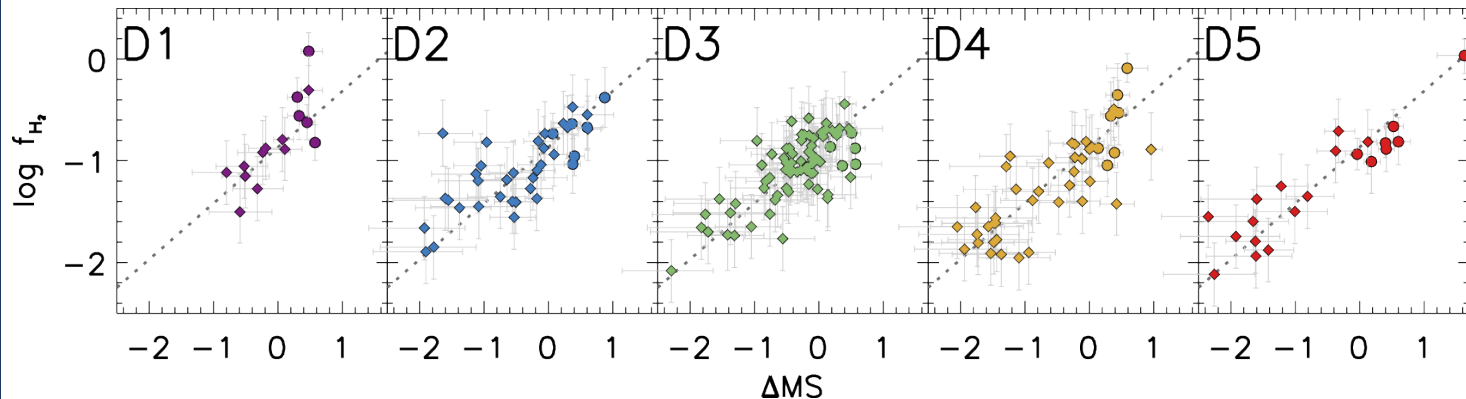
1. 東工大, 2. ISAS/JAXA, 3. ハワイ観測所, 4. 総研大, 5. 愛媛大, 6. 国立天文台, 7. 東北大, 8. UCO/Lick Observatory

## 星形成活動分布の密度環境依存性の起源は？

✓ 星形成効率への影響？ or 分子ガス存在量への影響？

- 星形成活動 ( $\Delta MS$ ) と分子ガス存在量 ( $f(H_2)$ ) の関係を密度環境ごとに比較。

-> 両者の関係は密度環境によらず一定の関係にある。



- 環境は銀河内部の星形成プロセスには影響していない。
- どの環境においても、銀河はこの関係を維持しながらパッシブへと進化している。

-> 星形成活動の環境依存性は、分子ガス存在量の低下に起因している？